

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里 こもれび		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	平成28年7月11日	評価結果市町村受理日	平成28年8月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502389-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502389-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差したグループホームでありたいと町内の行事や催し物等には参加させていただき交流を図っております。近くの小学校とのお付き合いは開設当初から現在も続いており、運動会や学習発表会などで交流を深めてきました。日常的には洗濯物を干したり畳んだり食事の下ごしらえや食器拭き等、家事を共に行いながら「のんびり・ゆったり」笑いのある生活を心がけております。雪が解けプランターへの花植えや山菜の下ごしらえ、秋には漬物作り等の季節の慣わしも毎年恒例で、買い出しからご利用者さんと一緒に行っております。お花見や紅葉観賞、戸外でのバーベキュー等季節を感じて頂ける行事も企画、また 地域のお祭りや音楽会などのお誘い、触れ合う機会を頂き、地域の一人として温かく迎えて下さり、助けて下さり、ご家族の協力と町内の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いずみの里」は、JR平和駅から徒歩10分程のバス停にも近い静かな住宅地に立地している。商店街も近く、生活の利便性に優れている事業所である。高齢者住宅を併設した3階建ての建物で、1、2階がグループホームになっている。高齢者住宅の入居者やユニット間で交流を深めながら、積極的に地域のお祭りやコンサート、小学校の運動会や学習発表会に利用者と一緒に出かけするなど地域に根差した運営を行っている。近隣から野菜や花などを戴くこともある。運営推進会議の参加者も多く、婦人部や民生委員など数名の町内会関係者や3～4人程の家族が毎回出席している。管理者を中心に全職員で利用者の自己決定を尊重し、一人ひとりの心に寄り添いながら熱心にケアに取り組んでいる。職員は、毎月思考を凝らした季節の行事を数回取り入れ、利用者全員が笑顔で楽しい生活が送れるように工夫している。献立は、食材を見ながら利用者と一緒に考え、1日30品目を目標にバランスの取れた家庭的な食事を提供している。管理者の細やかな目配りや気配りをはじめ、笑顔で丁寧な職員の対応に家族からは感謝の言葉が多く寄せられている。管理者は、今後も職員と学びを深めながら更なるケアの向上を目指していきたいと前向きに運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム内の目の触れる場所に掲示、ケアを行っていく上で常に意識しながらご利用者に関わる様になっている	事業所独自の理念の中に、「地域町内会等での交流の場を広げ、生きがいのもてる支援をします」という、地域密着型サービスを意識した文言を明記している。入社時に理念を伝え、日頃から意識できるように事業所の要所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し事や町内会行事には積極的に参加し交流を深めている。雪のない時期はホームの周辺の散歩やスーパー、商店街等へ買い物に行きお付き合いさせて頂いている	町内のニューイヤークンサートや白石区のふるさと祭り、小学校の運動会や学習発表会に利用者と一緒に出かけている。近隣から山菜や花を戴いたり、事業所の収穫祭に近隣住民を招待して日頃から交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事等に参加することでご利用者への関わりやケアの様子などを見て頂いている。ホーム主催の行事などにも招待し関わっている様子や生活を見て頂き認知症の理解に繋げている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容やご意見はケアの実践に活かし質の向上が図れる様に取り組んでいる	婦人部や民生委員、家族等多くの参加者を得て事業所報告を中心に年6回会議を開催している。今後は全家族へ議事録を送付すると共に、テーマに応じて参加できない家族の意見も事前に聴き取り、更に会議を充実させていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	複雑事例や困難事例、不明な点があれば札幌市や国保連、地域包括支援センターなどへ問い合わせ相談しながら担当者のアドバイスで解決に向けた協力を頂いている。市・包括主催の研修、勉強会、行政説明会等への参加、キャラバンメイト活動への協力等で協働、連携を図っている	管理者は、介護保険の更新申請や各種手続き、書類の提出などで役所を訪問し、担当者と話しながら情報などを貰っている。地域包括支援センター主催のウエルカムカフェに参加して他業種の方と交流をして、成年後見人などの紹介に繋がったこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とはどのような行為の事」というリーフレットをユニット内に掲げ、常に職員やご家族、来訪者の目に触れるようにして啓発・啓蒙を図っている。研修や勉強会へは積極的に参加し全体会議で発表、職員全員での話し合いを通して情報の共有を図り現場でのケアの実践に活かしている	「身体拘束ゼロへの手引き」を整備し、外部研修後にユニット毎に研修報告を実施している。日中は施錠することなく、安全面に配慮しながら利用者の自由な外出を支援している。今後も禁止行為について全職員が理解を深められるように、更に学びの機会を増やしたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や毎日の申し送りの中でケアの確認を行い職員間で常に話し合いの場を持ち防止の徹底を図っている。研修へも参加し知識を深め見過ごすことのない様に注意を払っている		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して必要な時は制度の説明や情報提供を行い相談にのっている。実際に活用となった場合は円滑に行くように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時にはパンフレット等で説明、契約時には「重要事項説明書」にて十分時間をかけて理解と納得、同意頂けたかの確認を行っている。契約解除の時も不安や困りごと、今後のご希望などを伺い、他機関や地域資源に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に「運営推進会議・家族会」を開催、ご家族や町内の方々、包括支援センターの方のご意見や要望、アドバイスを運営やケアの実践に活かしている。会議に参加されない場合でもお手紙や電話、来訪時に伺ったりお伝えする様にしている。ご利用者との会話の中からの気付きもホーム運営に反映させるようにしている	面会時や電話で、利用者の状況を伝えながら家族の意見や要望を聴き取っているが、感謝の言葉を伝えられることが多い。家族からの話は、職員の連絡ノートや日々の「生活記録シート」に記載して職員間で情報を共有している。管理者は、独自に「私の療養シート」を活用して個別に記載している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体、ユニット会議、カンファレンス、申し送り等の中で職員間で話し合いの場を設け、意見の集約を図り、運営に反映させている	管理者は、職員が話しやすい環境整備に配慮しており、日頃から率直な意見や提案が多く出されている。管理者は、職員の状況を見ながら個別面談を行うこともある。ユニットリーダーを中心に、各職員も3ヵ月毎に交代しながら係りを担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には表彰と資格手当の付与でモチベーションの向上を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修への参加や自ら希望した場合でも発表の機会があり、働きながらスキルアップが図れるようになっていく。全体会議での発表で職員全員での情報共有が図られている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し連絡会や勉強会等への参加で交流と情報交換が図られている。またそれらを日々のサービスと質の向上に役立てている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階からご本人にもホームを見て頂き、面接の際にもさり気なく想いや不安、困りごと、望む暮らし方等を傾聴し、住み替え、環境の変化によるストレス軽減や関係性作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは入居が決まった段階でセンター方式アセスメントA、Bシートをお渡ししてご記入頂いている。ご本人の生活歴、療養歴、ご家族関係や暮らし方等の情報収集から不安や困りごと要望にも耳を傾け、ご本人を協働で支えて行けるように関係性作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時にご本人やご家族の話しを傾聴し協働作業でセンター方式を用いアセスメント。ケアプランは5つの視点を基に個別に必要としている支援を見極め他のサービスを含めた対応で「その人らしく生きる」自立に向けた対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずに人生の先輩貴重な知恵者と敬い、謙虚に教わりながら協働で楽しく和やかな暮らしとなる様にお膳立てや場面作りで関係性に配慮した関わり、関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者・ご家族の想いに寄り添いながら、面会時には日常の様子や気付き、出来る事(残存能力)嬉しい出来事などをお伝えし、ご家族との絆を大切に、共に暮らしを支えているパートナーとしての関係性作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を支えてくれた大切な方やご本人が支えて来られた方々との関係性が入居によって途切れる事のない様に、面会、外出、外泊等の支援で継続的に交流が続けられる様に支援している	利用者の高齢化に伴い、知人や友人の来訪は殆どなくなっているが、月命日にお坊さんが来訪する利用者もいる。馴染みの理容室に出かけている方もいる。家族と一緒に、外食やお墓参りなどに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、団樂の時も職員と一緒に加わり良い関係性が築けるように努めている。またご利用者同士の関係性が悪くならないように見守り、状況によっては介入・代弁等、良い関係で笑って過ごす時間が多くなる様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用が終了してもその後の状況や近況を伺い関係を断ち切らない様に努めている。ご家族からの相談や心配事にも耳を傾け、その後のフォローや支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人々のご希望や意向に関心を寄せ、ご家族や関係者からの情報やご本人の表情、仕草、日々の関わり等の中から把握する様に努め、本人本位に検討している	入居時は遠慮することもあるので、職員が交代しながら自然体で話ができるような環境作りを行っている。利用開始時に生活歴や趣味嗜好などを聴き取っているが、書類の更新は行われていない。	現在の利用者の思いや意向が分かるように、職員が記入しやすい書類を検討して、介護計画の更新時に記録を追記していくよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始の際、関係者やご家族からの情報提供や「アセスメントシート」への記入を依頼しこれまでの暮らし方の把握に努め、現在、そしてこれからの暮らしに繋げる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方から出来る事、分かること、体調などを把握し、ご本人のペースやリズムを尊重。周囲との調和を図りながら安心できる生活となる様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がよりよく暮らしていくための安定性、絆、仲間、役割等をその人らしさを視点に職員全員でアセスメントやモニタリングを行っている。課題整理総括表やモニタリング実践記録表により目標達成状況や満足度等を総合評価し、次のプランに繋げている	諸事情により、前年度は全職員で検討する時間が取れなかったため、6ヵ月毎に当日の出勤者でモニタリングを行い介護計画を見直している。「モニタリングシート」や「生活記録シート」の書式は整備されているが、十分に活用されているとは言えない。	介護計画の見直しに活かせるように、全職員で毎月モニタリングを実施すると共に、課題となるサービス内容に沿って「生活記録シート」に記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子や変化、ケアの実践結果を個別に生活記録シートに記載、また連絡ノートや受診ノート、申し送り等で情報共有を図りながら次のプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた受診援助や外出支援、外泊等必要とするサービスには柔軟に対応し、個々に満足が得られる様に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域資源を把握しご本人の暮らしを支えて行く接点を見出すようにしている。コンビニや理容室、周辺施設、町内会にも協力依頼の働きかけを行いホームで暮らしていても地域の一員として生活が豊かとなる様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけでなく、ご本人やご家族の希望する病院にも出来るだけ対応。かかりつけ医との関係性を理解、ご家族の協力も得ながら適切な医療が受けられる様に支援を行っている	利用開始時に、協力医療機関の説明をして受診先を決めている。かかりつけ医の受診も家族と共に殆ど職員が同行し、日頃の様子を伝えている。家族だけが同行する場合は、口頭や書面で様子を伝えている。受診状況は、個別に記録している。	

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師やホームの医師とは気軽に相談できる体制、関係性が出来ていて適切な医療が受けられる様になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は「介護要約」「フェースシート」等での情報提供を行い、安心して適切な医療が受けられる様に支援している。治療終了後の方向性の検討も、早い段階から医師、看護師、ソーシャルワーカー等、また ご家族と一緒に話し合い早期退院に向けての働きかけや関係作りを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のホームの対応範囲については入居相談時に説明。入所時には「終末期及び緊急時に関する意見(意思)確認書」を取り交わしている。意向については変更可能となっており症状の変化に応じて、ご家族、医師と相談しながら地域の関係者に相談する等チームでの対応としている	「重度化対応・終末期ケア対応・看取り指針」に沿って利用開始時に説明し、健康状態の変化に応じて主治医や家族と対応や方針を検討している。可能な限りの対応をしたいと考えているが、医療行為が必要になったり、経口摂取ができなくなった時は事業所として対応が難しくなる旨を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	直ぐに対応できるように救急救命講習への参加で初期対応訓練等を受けている。更に全体会議やユニットでの学習会等で、より実践力が高められる様にしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の防火・避難訓練を実施。夜間を想定した訓練や消火器の使い方や体験する等で全職員が身につけている。日常のお付き合いから近隣施設や町内会との相互協力体制も築いている	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。内1回は、近隣住民が参加し消防署の協力を得ている。今後も地域住民に避難訓練への参加を依頼すると共に、地震を想定した具体的な対応について全職員で検討したいと考えている。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は介護にあたってご本人のプライバシーや羞恥心に配慮した対応としている。全体会議等で個人情報保護法や情報漏洩防止などを学び、ミーティングを重ねる等で向上を図っている	利用者の自己決定を尊重し、無理強いしないケアを実践している。職員は寄り添い耳元で優しく話しかけている。プライバシー保護のため個人記録等はユニットの扉の付いた棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での意思表示が出来ないときは表情や仕草から想いを察する様にし、自己決定できるような関わりや意図的働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人々のリズムやペースを大切に、職員側の決まりごとを優先させず、ご利用者の気持を重視した個別性のある対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常会話の中からお本人のこだわりや好みなどを把握し、着替えのお手伝いをしている。自己決定の困難な方には一緒に選ぶ等で個々人の生活習慣に合わせた支援としている		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日に30品目以上の食材使用となる様に心掛け、職員が調理している。味付けや盛り付けなどご利用者の出来る事を一緒に行き食事までの過程を楽しめるように関わっている。パン食やすし職人に前で握っていただく等も企画し楽しみとなるような支援を行っている	食事で多種の楽しみが持てるように畑の野菜を献立に取り入れる他、行事食の回数も多い。ジンギスカンやバーベキュー、チラシ寿司、お好み焼きなどの献立にしたり、利用者と一緒に餅つきや大根の漬物作りをしている。チラシを見ながら食べたいものを聞いて、一緒に買い物にも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は各々人の生活記録シートに記載し、職員間で共有しながら支援に当たっている。嚥下状態に合わせて医師や看護師に相談、刻み食やトロミ食など一人ひとりの状態に合わせた対応としている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のモーニングケアのお手伝いや毎食後の歯磨きを実施。訪問診療による歯科医師や衛生士の指導のもと、歯ブラシ、ワンタフトブラシ、歯間ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシなどを各々人に応じて使い分け、口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々人の排泄パターンやリズムを把握し、お手洗いで排泄に向けた声かけや誘導を行っている。ご利用者の自立した排泄が続く様に支援している	「生活記録シート」に水分摂取量、排泄回数、失敗の有無等を記録し、時間誘導でトイレでの自然排泄を促している。便通のない場合は下剤で調整し、毎日の牛乳やヨーグルトでも整腸管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供と水分を多めに摂取して頂き、繊維質の多い食品を献立に取り入れる等の工夫を行っている。排便状況は生活記録シートに記載し身体を動かす機会や医療に繋げる等で各々人に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一方的に入浴日を決めるのではなく、ご利用者の希望や体調を確認してから入っていただいている。週2～3回を目安に個浴ならではの会話も楽しんでいる。身体の異常の有無を観察し、発見時は必要な支援を行っている	毎日午後3名程度、1人平均週2回の入浴を実施している。入浴中は、職員と歌や懐かしい話をしながら楽しんでいる。拒否がある場合は時間をずらして気分を変え、入浴できるように支援している。希望があれば同性介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々人の体調に配慮し、ソファやベットなどで休める体制を整えている。ご利用者の生活に合わせた規則正しい生活習慣とリズムを整えるようにして、足浴等で浮腫予防や血行改善を含め夜間の休息や安眠に繋げる様に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々人の薬剤情報で目的や副作用、用法や用量などを理解し、与薬時にはご本人であることを声を出して確認、飲み込むまで見届け、確実な服薬としている。症状の変化を観察し、医師に繋げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々人の体調や出来る力に合わせた家事をお膳立てし、場面作りを行っている。お礼の言葉を伝える事で意欲の向上、自信に繋げている。楽しみ事や行事は月2回以上を企画、余暇の充実や季節感、喜びや気分転換を図り、暮らしの張り合いに繋げている		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分やご希望に沿って散歩や買い物、ドライブなど外に出かけている。地域の方の協力やご家族の協力を得ながら、音楽会やお祭り、お墓参りなど普段行けないような場所でも実現できている	気分を変えて外出できるような機会を多く計画している。区のふるさと祭り、町内の夏祭り、初詣、地域の小学校の運動会や学習発表会に招待され参加している。玄関先のベンチで日光浴や風にあたり、戸外で過ごす時間を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な消耗品程度の金額や医療費等の支払いの為、預かり金としてホーム管理としている。お一人々の力に合わせて所持し、欲しいものがある時は使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の所まで付き添い椅子を用意、また 電話番号を読み上げダイヤルの確認等のお手伝いや電話の取り次ぎ等も行っている。年賀状をポストに投函したりご家族にお渡しする等のお手伝いも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しかった行事の写真や季節感あるお花や飾り付けを行っている。室温や採光にも配慮し日差しをカーテン等で調節、ご利用者の方の希望や雰囲気に合わせてテレビをつけたり音量の工夫で落ち着いて過ごせるような環境作りに努めている	玄関前のプランターの花や、玄関の生花、壁の季節の飾りなどで四季が感じられる。玄関から廊下を進み居間へ入ると、温もりを感じる空間が広がっている。食卓テーブルやソファで寛ぐことができる。エアコンや窓の開閉で適温に調節し、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に椅子を置き、独りになれる空間や気の合う方と過ごせるスペースを作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して居心地よく過ごして頂けるよう、ご入居の際にはご本人やご家族の方と相談しながら、使い慣れた馴染みの家具や道具、大切にしていたお好みの物などを持参頂くなどで生活の継続を図っている	備え付けの照明とカーテンがあり、馴染みの家具や家族の写真、テレビなどを持ち込んでいる。月命日にお坊さんが来ている部屋もあり、安心して過ごせる居室となっている。ホームで過ごす自分の写真入りのカレンダーも飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者お一人々の日常動作に於ける移動動線を把握したうえで歩行の妨げとならない様に家具の配置や手摺りの位置に気をつけている。出来る事や分かる事を考慮し混乱や失敗を招かない様に自立した生活となるよう住環境を見直し、安全に配慮している		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里 そよかぜ		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	平成28年7月11日	評価結果市町村受理日	平成28年8月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502389-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502389-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はユニット目標である「笑い」の色紙を何時も目の触れるように居間の中心に掲げ、入居者さんが明るく、楽しく、笑いのある豊かな暮らしの中で「その人らしく生きる姿」を確かな専門的知識と技術で温かく支えながら、良い関係性と絆が築けて安心して暮らして頂けるようにと心がけております。常に自己研鑽に努め家族の一員であるとの想いで食事やお茶の時間も一緒に過ごし笑いのある一日を演出。不安や心配事、混乱などにも傾聴と関わりで気持ちが落ち着き、安心し、笑顔が取り戻せるように傍らに寄り添いながら生活を共にしております。認知症を正しく理解し気持ちを察する様しながらフイリングや感情の交流を大切に、ご本人の力を信じ、待つ姿勢と余裕を持ち、チームで話し合いながら知恵を出し合い、ケアの実践を重ね、感性を磨き「認知症の人」と人生を共に歩んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員に「敬う心、尊厳ある暮らし」が法人理念であることを周知している。更に現場である里の理念、ユニット目標を共有・意識して実践に繋げている。ホーム入口のエレベーターホール前、ユニット内にも掲示し誰の目にも触れるようにしている。また日頃から家族、地域との関係性の構築に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物や行事、小学校行事にも積極的に参加させていただき、繋がりを大切に地域の一員として日常的に交流が図れる様に努めている。近隣小学校とは職場体験や総合学習の場としてホームを提供するなど子供たちとの交流、関係を持つ機会も作っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を深めて頂けるように何時でもホームを解放、事業所主催の行事などへもご招待し、自然な姿、ありのままの生活に接して頂く様にしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催するようにして、ご家族、地域包括支援センター職員、民生委員や婦人部、町内の方々へ運営やサービスの状況を報告させていただいている。また気付きやご意見、話し合われた内容は参加されないご家族へもお知らせし、日頃の運営に反映させサービスの向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	複雑事例や困難事例、疑義解釈等不明な点があればその都度、市の介護保険課や国保連、地域包括支援センター等へ問い合わせ、相談、アドバイスを頂きながら解決の方向を探る様にしている。キャラバンメイト活動への協力など協働・連携を大切にしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに夜間のみ防犯上施錠している。身体拘束ゼロを維持するために掲示物や日々の申し送り等で意識付けを行っている。研修にも参加するようにし全体会議の席で報告、情報共有し日頃のケアの振り返りや向上に活かし、尊厳に配慮した身体拘束のないケアを心がけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や申し送りの際、意識付けを行うほかに研修や勉強会を開催し話し合う機会を持っている。「事故報告・ヒヤリハット報告」の記載で情報共有を図り、原因究明、再発防止に向けた取り組みを行い虐待に繋がらない様啓蒙・啓蒙、防止の徹底を図っている		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性に応じてご利用者・ご家族に「成年後見制度」「任意後見制度」「公正証書作成」「日常生活自立支援事業」等についての情報提供を行っている。現在法定後見補佐、公正証書作成にて任意後見契約、任意後見代理契約での支援を受け安心して生活されており、適切な活用が図られている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学や面談等でご希望や心配事、不安や疑問点などを伺い納得いただけるように十分話し合い、契約時には「重要事項説明書」で再度確認し合い双方納得、同意を得ての契約としている。契約解除の際にも相談に乗り納得の行く方向性を模索し不安のない様にお手伝いしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お一人々のニーズに合わせたメッセージを感情や言語等から察し、理解、確認し、安心して満足頂けるような関わりを心掛けている。またご家族のご意見や要望を伺い、対応の改善や運営に反映させている。エレベーターホールには御意見箱も設置してある		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話しやすい雰囲気作りに努め職員間の意思疎通が図れる様にしている。また 報告・連絡・相談を提唱し意見を運営に反映させている。全体会議やユニット会議では職員の意見交換が行われ、役職事務方職員も傍聴、運営に反映されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況に応じた評価でモチベーションアップが図られている。また 向上心を持って知識や技術、経験に磨きがかけられる様に、楽しく働きやすい職場環境の整備にも心を砕いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加で学んできた事はレポート提出や発表で職員間で共有を図っている。また OJTによる学習の機会も設け意見交換や現場での実践に活かしている。スキルアップや生涯学習として自主研修参加に対しての費用の助成も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの職員が連絡会や勉強会に参加し交流が図られるようにGH協議会に加入、交流やネットワーク作りを行っている。お祭りや発表会への参加で情報交換や相互交流が図れる様に努めているが職員も高齢化や子育て、家事との制約があり時間が取れず苦慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階からご本人にもホームを見て頂き、面談の際にもさり気なく観察や聞き取りで安心して頂けるようにゆったりと関わり傾聴、ぬくもりのある絆が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階でセンター方式アセスメントシートへの記入をお願いし、過去の生活歴や暮らし方、ご苦勞や不安、心配事、ご希望、要望などを伺い、ご家族の生活にも配慮しながらホームでの対応可能な範囲をお話しさせていただき、これからのご本人の人生に寄り添い支えて行く伴走者、協働作業、信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族との話し合いを通して心配事や希望する生活を伺い住み替えによる不安を最小限に配慮した設えを提案、事業所として出来る事、安心して頂ける対応をと心掛けている。必要とする社会資源やサービスに繋げる橋渡しも行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極め、一緒に食器洗いや拭き、洗濯物干しや畳み、また 野菜や山菜の処理など、昔取った杵柄、後始末などお知恵を拝借しながら共に楽しく家事を行っている。日々の生活は笑いと先輩に学び、支え合える関係を目指している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事に理解を示し、今までのご苦勞や介護の勞をねぎらい賞賛する様にしている。また ご家族の介護力にも学びながら、ご本人、ご家族の絆を大切に、共に支えて行く関係性作りを心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出・外泊の支援、馴染みの人や場所、絆の途切れる事のない様継続的に交流が図れる様に配慮し支援を行っている。また 電話の取り次ぎや面会時間などの制限はせずに他者への支障のない範囲で自由にして頂いている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に目配り・気配り・心配りを怠らず、個々人のペースやリズム、個性を尊重した関わりで孤立したり浮いたりしないように介入、調整を図り関係性の構築に努めている。ご利用者同士がお互いに温かく、豊かな関係となる様配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了していても、ご本人やご家族から相談があった場合は一緒に考え、情報提供や関係機関に繋げる等の支援、アドバイスで、今まで同様にフォローし関係性を断ち切らない様に行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から生活歴の聞き取りや日々の生活の中でご本人が何を望んでいるか発する言葉や表情、仕草から感じ取り、本人本位の暮らし方や自立支援に向けたケアを検討、話し合いを持ち、ケアプランにも反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者の方から情報収集するとともに日常生活の中でもご本人との会話や聞き取りで、過去の暮らし方を繋げていき今の生活、これからの暮らし方に繋げるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の会話や行動、生活リズムを24時間体制でアセスメント、日常生活記録シートに落とし込み職員全員が把握している。残存能力や有する力を尊重し個々人に合わせた関わり方の工夫で生きがいと満足いく生活となる様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く過ごして頂けるように職員によるモニタリングの他に、ご本人、ご家族、関係者からの聞き取りや話し合いの結果をプランに反映。実践・支援の結果は再度モニタリング・評価を行い次のプランに繋げている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人々、その日の様子を個人別に日常生活記録シートに記載し職員間で情報共有しながら継続したケア、次のプランに活かし、実践に繋げている。また 連絡・申し送りノート、受診ノートの活用で更に伝達・情報共有が図られ、方向性や実践の統一、ケアプランの見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定外の受診援助や外出・外泊支援など必要に応じたサービスを個別に、その時々に必要なニーズに合わせて柔軟に対応し、安心・満足に繋がる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々や地域の企業等に、ここに施設があることを認識して頂けるよう発信、町内会にも加入。また ご利用者も地域の一員であることが実感できるような地元での日々の食材・日用品の購入や散歩、地域のイベントなどにも参加するようにして地域との繋がりを大切に、生活者として協働に向けた取り組みを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけでなくご家族が希望する病院や医師にも対応。ご家族の協力を得ながらこれまでのかかりつけ医との関係性を重視し、不安なく適切な医療が受けられる様に支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師やホーム医の看護師とは気軽に相談が出来る、適切なアドバイスで医療が受けられる関係にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった段階から医療連携室やSWと連携し、「入居時基本情報」「介護要約」などで情報提供、安心して適切な医療が受けられるように支援している。治療終了後の方向性についても同意を得て、早い段階から、ご家族への病状・経過説明、カンファレンス等にも参加させていただき、医療との協働体制で退院後に不安のない様連携した関係作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の段階からホームでの対応可能な範囲について説明。入所時には「終末期及び緊急時に関する意見(意思)確認書」を取り交わし意思の確認をさせて頂いている。意向については変更可能な対応となっており状態の変化に応じて医師、ご家族と相談しながら地域の関係機関に繋げている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習等を受講し直ぐに対応できるよう実践力を培っている。また 全体会議やユニット会議を開催し学習会や情報共有を行いスキルアップを図っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、定期的に避難誘導、消防訓練を行い職員全員が避難誘導方法は習得出来ている。近隣施設へも火災通報機で自動的に救援要請され双方での協働体制、町内会加入で地域との協力体制も図っている		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念でもあり人格を尊重し、尊厳ある暮らしと自尊心に配慮した関わりで対応。ご利用者お一人々に合わせた声かけやプライバシーへの配慮へも細心の注意を払っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いをくみとる為に、日頃から関係性作りやコミュニケーションを心掛け、何げない一言や表情、行動から想いに気付く様意識的関わりで自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの日課を優先するのではなく、個々人のその日の体調や気持ちに配慮しながら暮らしの支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容によるお洒落の他に、いつもご本人が気持ちよく生活できるよう、気候やTPOに合わせた身だしなみとなっているか、一緒に選んだり、好きな色やデザインに配慮しながら確認している		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスの他に日常の会話の中からお好みや食べたい物を把握し献立に活かしている。旬のもの、季節感や彩にも配慮し見た目からも食欲をそそる様な工夫で食卓を囲んだ楽しい食事となる様に演出、食後の片づけもできる部分をお願いし一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個人記録に記入し必要量が確保できるよう職員間で情報共有。個々人の習慣や嗜好に合わせた飲料、代替食、補食また経口栄養剤を医師の処方のもと提供し低栄養や脱水に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	開設時すぐに取り入れた歯科の訪問診療や居宅療養管理は現在も続いており、口腔機能低下防止や改善に向けた取り組みを行っている。食後の口腔ケアはご本人の出来る力に合わせた支援で、歯間ブラシや舌ブラシなども採用、個々人に合わせたケアで清潔保持を図っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄リズムに合わせた声かけ、誘導で失敗を防ぎ、トイレでの排泄を目指している。パットやオムツは排泄状況に合わせて昼夜で種類を使い分け、漏れや失敗のない様に自尊心に配慮、自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や繊維質の多い食品の提供 適度に身体を動かすなどで自然排便に繋がるように支援している排泄に向けた努力を行っても便秘傾向の時は医師に相談し便秘解消や排便コントロールなど個々人に合わせた取り組み、対応で予防を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を目安に声かけし意向を確認。拒否があった場合でも時間を置いたり他職員が再度お誘いする等で、個々人に合わせた対応としている。自ら希望される場合もあり調整を図って入浴を楽しんで頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から夜にかけては活動を控え就寝に向けた支援でリズムを整えている。足浴や温かい飲み物を用意する等寄り添い傾聴。日中も離床と臥床(休息)のバランスを図りながら安眠に繋がる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に当たって職員は、観察や個々人の生活記録、病院受診ノート、薬剤情報等で、症状の変化などを常に確認。個々人の投薬の目的や効果、副作用などを理解したうえで支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の出来る事、得意なこと等を把握し役割創設。家事、買い物、水やりなど出来る力を活かしたお膳立てで満足感と達成感、日向ぼっこやドライブ、外出等の他、出張握り寿司等で感動と気分転換を図るなどしている		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや戸外での日向ぼっこなどの外出支援を心掛けている。ご家族には、外でのお食事やお墓参り、ショッピング外出等の協力を頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にはご家族が行っている。普段の買い物や行事等で使用するときはホームでお預かりし、ご本人の希望に添い、職員がその都度、個別に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に添い年賀状やお手紙の投函、普段の電話の取り次ぎの際も椅子を用意する等で、安全に安心して交流が図れる様に配慮、絆、関係性の維持を図っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には飾り付けや装飾で季節感が味わえるよう工夫している。また 行事や普段の生活の写真等を飾りコミュニケーションツールとしている。温度や照明、陽光の調節で、穏やかに落ち着ける空間となるよう配慮、心地よい音楽や懐メロ、ご飯の炊ける匂や野菜を刻む音など家庭的で落ち着ける雰囲気とし、安心して過ごせるように心がけている。玄関にはお花を絶やさないようにし、頂き物の珍しい野菜を飾ったりして話題づくりに活用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫、気の合う人と過ごせるような席決めや配置、お一人々の居場所が確保できるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品をご本人やご家族と相談しながらご持参いただき、今までの生活に近い設えとしている。季節に応じた寝具や衣類の入れ替え等で居心地よく安して暮らして頂けるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動が安全に行なえるよう手摺りを設置。家具やソファ等の配置の工夫や夜間の照明等安全に配慮し、移動動線上には躓きや歩行の妨げとなるような物を置かないよう危険を予測した環境とし、安全に自立した生活が送れるように配慮している		



## 目標達成計画

作成日：平成 28年 8月 15日

市町村受理日：平成 28年 8月 23日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式B-3シート(暮らしの情報)及びバックグラウンドアセスメント表(過去の生活背景)の記入をお願いし長年馴染んだ習慣や好み、現在の状態・状況を把握し、馴染みの暮らしが継続できる様に支援しているがご家族の記入が主で、ご利用者の現在の想いや意向の把握に繋がっていない	介護計画更新時に、センター方式C-1-1, C-1-2(私の姿と気持ちシート)を活用し、現在のご利用者の想いや意向を把握していく。願いや支援してほしいことを本人の立場になって話し合い、考え、記入していく	1)センター方式C-1-1, C-1-2(私の姿と気持ちシート)への記入(モニタリング実施月1回目、6回目) 2)介護計画の更新時、ご本人の願いや支援してほしいことをポイントに記録、追記していく 3)ユニットリーダーは、課題23, 26ともに主導していく	1年
2	26	職員全員によるモニタリングやカンファレンスの機会が作れず、毎月実施するはずの「モニタリングシート」の活用が十分ではない。「生活記録シート」への記入もプランに連動した記録となっておらず、サービス内容に沿った記入が課題である	マスタープランでのサービス内容は介護の現場で考察話し合っていく。それを基にして「個別援助計画」として作成。「個別援助計画」に基づく実践はプランに連動した支援となり「生活記録シート」にはサービス内容に沿った記入となる	1)モニタリングは毎月実施し、次の介護計画の見直しに活かしていく 2)課題となるサービス内容は現場の介護職員で話し合い「個別援助計画」を作成する 3)「生活記録シート」への記入も援助計画に沿った支援経過の記録としていく	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。